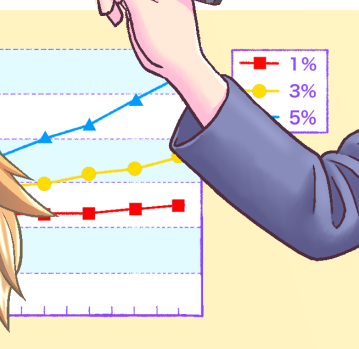


# お金がわかる

長期

積立

分散





# ／＼／＼ これからの お金の考え方

人生100年時代といわれる今、生涯にわたって安心してより良い暮らしを送るためには、一人ひとりが金融に関する知識と判断力(金融リテラシー)を身につけることが大切です。かつて、経済成長を続けていた頃の日本は金利が高く、ただ銀行にお金を預けているだけでお金がふえていきました。しかし超低金利時代の今、どこに預けても利息はあまり期待できません。また、公的年金は今の現役世代から集めた掛け金を今の高齢世代に渡す役割があるため、少子高齢化が進んでいる現状では、老後の生活費を年金だけでまかなうことは難しくなるでしょう。また、長い人生の間には、結婚や子供の誕生、住宅購入など、お金がかかるイベントもあります。だからこそ将来に備えて、計画的に資金を準備することが必要なのです。



## 「長期・積立・分散投資」で将来に備える

お金をふやすには、働いて得た収入を貯蓄する以外に、そのお金を元手にしてお金をふやす「資産形成＝自分のお金にも働いてもらう」という方法があります。その運用方法の一つが「投資」です。**投資は、将来が有望な国や企業の生産活動を応援するために、自分のお金(資本)を投じること。**金融商品を購入する契約なので、どのような仕組みなのかを身につけて慎重に行う必要がありますが、金融の知識は社会の仕組みを知ることにつながる大切な学びです。

資産形成や投資は難しそうと思うかもしれませんが、正しい知識を身につければ、特別に難しいものではありません。**資産形成で大切なのは、「投資先や投資時期などを分散させること」。**金融市場は短期的に大きく変動することがありますが、資産を保有する時間が長いほど安定した運用成果が上がる傾向があるため、長期保有するのが基本です。リスクを抑える「長期・積立・分散投資」で、将来に備えて計画的に資産形成を行いましょう。

カゴに入った卵



カゴを分けると



ひとつに  
まとめると全部  
割れちゃう



リスクが  
分散される！





# ニュースで読み解く“お金のいま”

これまで当たり前前に考えていた環境が、近年大きく変わり始めています。新しい金融商品が登場し、自分の幸せと社会貢献の両立が可能となってきているのです。誰でも金融商品と関わりを持つことになる今、世の中でどのようなお金の動きがあるのか、毎日新聞の記事から紹介します。



NEWS

1

## 環境に優しい事業に投資する グリーンボンドが注目の的

再生可能エネルギーなど、環境問題解決につながる事業の資金を調達するために発行する債券「グリーンボンド(環境債)」の発行額が国内外で年々拡大しています。日本では、従来は主に政府系機関や自治体が発行していましたが、近年は環境での取り組みをアピール



できる狙いもあり、民間企業が相次いで参入。2021年10月には欧州連合(EU)がグリーンボンドを初めて発行し、世界最大規模の約1.5兆円を調達しました。投資を通じて社会貢献できることから、環境問題に関心の高い投資家から注目を集めています。(2018年6月14日)

戸田建設がグリーンボンドで事業を行う浮体式洋上風力発電=長崎県五島市沖で2018年、同社提供



NEWS

3

## NISAやiDeCoで資産形成 若い世代が投資を積極化

コロナ禍を機に、新たに投資を始めたり投資額を増やす若い世代が増えています。感染拡大の影響で収入が減ったり、将来の見通しが不透明になった人が増え、家計不安から「資産形成が重要」という意識が広がっているためです。特に利用者が増えているのは、「長期・積立・分散投資」に向く、積立型少額投資非課税制度「つみたてNISA」。口座数は2020年3月末から9月末までの間に、20代が40%、30代が28%増えています(図1)。また、20~59歳の現役世代なら誰でも加入できる個人型の「iDeCo」を含む確定拠出年金は、20~30代の72%が制度を「知っている」と回答しています(図2)。(2021年1月11日)

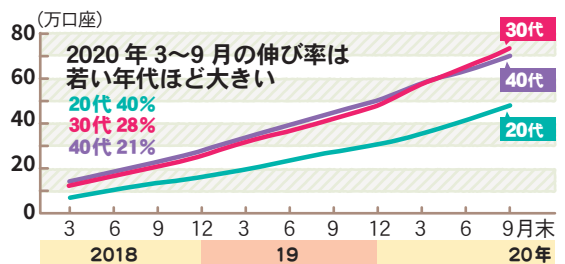
NEWS

2

## 大学がESG投資で 学生たちを支える

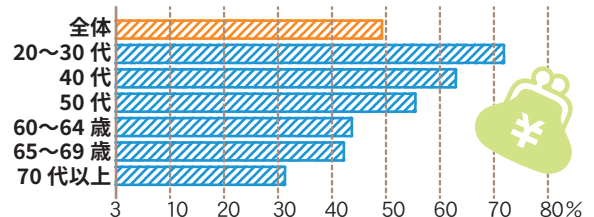
上智大学(東京)を運営する上智学院は、全国の学校法人に先駆けてESG投資を導入しました。ESG投資は、従来の財務情報だけでなく、**環境(Environmental)**、**社会(Social)**、**ガバナンス(Governance)**要素も考慮して行う投資のことです。大学が資産運用を行うのは、収益を教育や研究費、奨学金に充てるため。新型コロナウイルスの感染拡大でアルバイト先を失うなど、学業の継続が困難になっている学生たちを支える意味でも大切な原資となります。一方、大学でも、投資が持続可能な社会を築く有力な手段であることを理解してもらおうと、ESG投資に関する授業を実施しています。(2020年6月22日)

図1 つみたてNISAの口座数



※金融庁「NISA口座の利用状況調査」を基に作成

図2 確定拠出年金の「内容を知っていた」割合



※日本証券業協会「個人投資家の証券投資に関する意識調査」を基に作成



FPと考える！



# 自分の将来とお金の関わり

ライフイベントにかかるお金の一例

20～30代

40～50代

結婚



新たな人生のスタートです。盛大に披露宴を開く、入籍のみで済ませるなど、価値観によって出費は大きく異なります。結婚指輪や新婚旅行、引越しや家財道具の費用なども必要になるでしょう。

費用の目安

結婚式  
約362万円

※出典：ゼクシィ「結婚トレンド調査2020」調べ(挙式・披露宴・ウエディングパーティー総額の全国平均)

出産



出産は病気ではないため費用は全額自己負担ですが、「出産育児一時金」などの公的制度を利用すれば負担が軽くなります。ほかに、ママと赤ちゃんのためのグッズ・衣料などの費用もかかってきます。

費用の目安

出産  
約51万円

※出典：公益社団法人国民健康保険中央会「正常分娩分の平均的な出産費用について 平成28年度」

住宅購入



マイホームは、人生で最も大きな買い物です。購入費用は新築か中古か、都市部か郊外かなどにより変わります。物件価格以外に、税金や登記費用、維持管理費などさまざまな費用が発生します。

費用の目安

住宅購入費(新築)  
建売 3,495万円  
マンション 4,545万円

※出典：住宅金融支援機構「2020年度フラット35利用者調査」

人生100年、  
お金との関わりは  
これからが本番！

「将来はこんな仕事に就きたい」とは思っても、今から結婚や子育て、老後のことまで考える人は少ないかもしれません。しかし私たちは、生涯にわたってさまざまな金融商品と関わりを持つことになります。一度、自分がどんな人生を送りたいのか考えてみましょう。具体的なライフプランを立てることで節目ごとに必要な資金も見え、いつまでにどのような準備が必要なのか理解しやすくなります。“その時”になって困ることがないよう、普段からお金としっかり向き合うことが大切です。



人生には、結婚や出産、住宅購入、子供の教育など、お金がかかるさまざまなイベントがあります。何にどれくらいの費用がかかるのかを参考に、将来に向けて資金計画を立てましょう。

教えてくれた方

(株)イー・カンパニー代表  
ファイナンシャルプランナー

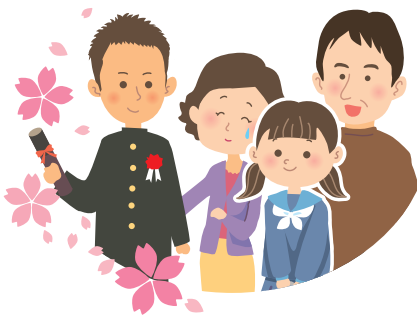
八木陽子さん



親子で一緒にお金と仕事を考える「キッズ・マネー・ステーション」を主宰。2017年、文部科学省検定の高校家庭科の教科書にファイナンシャルプランナーとして掲載されたほか、セミナーや講座を年間100回以上講演し、メディア出演や書籍監修を行いながら金融教育の普及に努める。

60代

教育



子供の教育費が一番膨らむのは、**大学進学**の時期。国公立か私立かや学部、仕送りが必要かどうかなど、進路により費用には大きな差があります。子供が生まれたら積み立てを始めるといいでしょう。

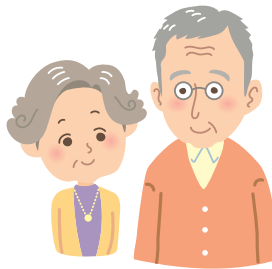
費用の目安

幼稚園～高校は公立  
大学は私立文系の場合

約1,250万円

※出典：文部科学省「平成30年度 子供の学習費調査」、日本政策金融公庫「令和2年度 教育費負担の実態調査結果」より試算

老後の生活費



定年退職後は年金生活。下記の費用は**高齢者夫婦無職世帯の平均支出**です。仮に老後を20年として年金収入から不足分を割り出し、少しでも早く計画的に資産形成を実践していくことが大切です。

費用の目安

老後の生活費

1カ月 約26万円

※出典：総務省統計局「家計調査年報(家計収支編)2020(令和2年) 家計の概要」

介護



年を取れば病気にかかったり、介護が必要になることがあります。**介護施設に入居する場合はまとまったお金が必要な点に注意しましょう。**親が要介護になり、支援する可能性もあります。

費用の目安

介護費

1カ月 約17万円

※出典：厚生労働省「令和元年度 介護給付費等実態統計の概況」(保険給付額、公費負担額及び利用者負担額の合計額)

必要なお金を  
計画的に  
準備しよう

子供の教育や住宅購入、老後のように、人生には大きなお金がかかる時があります。まとまった資金が必要な時期を想定して、貯蓄や投資で計画的に準備していきましょう。また、生涯元気で暮らせるとは限りません。もしもの時に困らないよう、生活費の3カ月分～1年分を備えておくのが理想です。



急にお金が必要になる場合とは？

事故によるケガや病気で働けなくなった時、家の修繕費が必要な時など

高校生  
も  
挑戦!

# 投資を通じて 社会と関わる

金融を学ぶことは社会の仕組みを知ることであり、投資は金融商品を通じて社会と関わりを持つことを意味します。投資はお金もうけというイメージがあるかもしれませんが、本質は「より良い社会をつくるためにお金を役立てる」こと。それが巡り巡って大きくなり、自分に返ってくるのです。SDGsの取り組みが重視される今、どのようにお金を活かすかまで意識を向け自分の将来と社会の未来をつくる『投資の力』を身につけていきましょう。

## ！ 投資の基本ルールとは？

資産形成には損をする可能性(リスク)がつきもので、「絶対にもうかる」という金融商品は存在しません。リスクを抑えるための基本は「長期・積立・分散」です。

**長期**…基本10年、少なくとも5年以上投資を続ける

**積立**…毎月1万円など、定期的に同じ金額を投資に充てる

**分散**…1つの資産にまとめて投資せず、特徴の異なる複数の資産に投資する

## お金を貯める・ふやす方法を知ろう

将来に向けてお金を準備する「資産形成」には、預貯金などの「貯蓄」と利益を見込んで株式や投資信託を購入する「投資」の、2つの方法があります。

### 預貯金



銀行や信用金庫などの金融機関が、お金を預けた人に対して、**一定の利息と将来の元本の支払いを保証している金融商品**です。普通預金であれば、必要に応じていつでも引き出して使えます。

### 債券



国や地方自治体、会社などが、**事業に必要な資金を多くの人から借りるために発行する有価証券**。満期まで待てば全額戻ってくるほか、決められた利息が支払われます。

### 株式



**株式会社を設立したり、会社の活動資金を集めるために発行される証券**のこと。証券会社を通じて購入できます。資金を提供した人は、その会社が利益を上げた時に配当などを受け取ることができます。

### 投資信託



投資家から集めたお金を一つの大きな資金としてまとめ、**運用の専門家が国内外の株式や債券などに投資する商品**です。その運用成果は、購入額に応じて投資家に分配されます。

## 長期・積立・分散投資に適した投資信託

投資信託は、安心して投資するための基本ルール「長期・積立・分散」の実践に適した金融商品です。どんな特徴があるのでしょうか。



特徴

1

少ない金額から購入できる

通常、株式や債券の投資にはある程度まとまったお金が必要ですが、投資信託は**1万円程度から始めることができます**(積立投資なら1,000円や100円などの少額で購入できる場合もあります)。

特徴

2

株式や債券などに分散投資できる

投資の基本は、**資産をいくつかの商品に分けてリスクを分散させる「分散投資」**。投資信託は、さまざまな資産に分散投資し、リスクを軽減する考え方から生まれた金融商品です。

特徴

3

専門家が運用する

株式や債券などの投資には、幅広い知識や情報が必要なため、**初心者ではなかなか難しい**と言えます。投資信託は、投資の専門家が投資家に代わって運用します。

## 資産形成で社会貢献

投資先を選ぶには、企業や国がこの先どのように成長するかを考える視点が必要です。その際、重要なキーワードとなるのが「サステナブル」。地球環境や社会の課題に取り組み、持続可能な世界を目指す企業や国へ投資することは、より良い未来をつくることにつながります。P3で取り上げたグリーンボンドやESG投資もその一つ。自分のお金が社会やみんなの幸せを後押しする力になります。

会社経営も投資も  
私たち高校生が  
行っています！



高校生たちが資産運用する学校も！

### 生徒自身が会社も経営する 茨城県立常陸大宮高校

常陸大宮高商業科は、2016年に全国で3校目となる高校生の株式会社「HIOKOホールディングス株式会社」を作りました。**生徒自身が地域の特産品を生かしたビジネスで会社を運営し、そこで得たお金で2020年からは株式投資による資産運用も始めています**。株の銘柄を選定するのも生徒が主体。同校の横山治輝先生は、「投資で大事なことは自分が信用している会社や好きな会社を応援するという考え」だと伝えています。





動画で学ぼう!



# 高校生のための「人生と投資」のお話

投資は、自分と社会の未来を創っていくために不可欠なものです。投資信託協会は、これから資産形成や投資信託のことを学ぶ高校生や教師のみなさまに、資産形成のことをより身近に感じてもらうための動画シリーズを製作しました。この動画は下記5人の方々から高校生に向けたメッセージとなっています。「なぜ、高校生の自分たちが投資について学ぶのか」について、理解を深めていただければと思います。

## メッセージ動画

「16歳の自分に教えたい  
お金との正しい付き合い方」



セゾン投信  
代表取締役会長CEO

中野晴啓先生

自分のお金が世の中を豊かにして、やがて自分にお金が返ってくる。だから堂々とリターンをもらえ、それが社会貢献になる!



レオス・キャピタルワークス  
代表取締役会長兼社長・  
最高投資責任者(CIO)

藤野英人先生

投資はその会社を応援すること。それを知れば投資をしようという人が増え、世の中全体も良くなっていく。そんな社会を目指そう。



シンクタンク・フォフィアバンク  
代表

藤沢久美先生

お金は道具であり、どう使うかが大切です。自分の未来とみんなの幸せのために、時間とお金をどう使うかを考えれば、社会の仕組みも理解できるようになります。



農林中金バリューインベストメンツ  
常務取締役兼  
最高投資責任者(CIO)

奥野一成先生

投資で重要なのは付加価値が高く、強い競争力を持つ構造的に強靱な企業に投資すること。みなさんも自分へ投資して強靱な人になろう。



佐藤総合法律事務所代表

佐藤明夫先生

お金は世代や立場によって意味することが違い、大人になるにつれてその重さがわかってきます。幸せな生活を長く続けるために、投資を考える時代がきています。

今後新たな動画を随時掲載していきます

学習画像ライブラリーはこちら! →

<https://www.toushin.or.jp/start/4/>



一般社団法人  
投資信託協会  
The Investment Trusts Association, Japan

<https://www.toushin.or.jp>